

短歌（投稿順）

夜川瀬の川面に映るかがり火が流す神輿の穢れ清める
新盆を全て任せた子供達盆送り済ませ家路にと去る
みんみが経あげること鳴きしきる戦後八十年かなしみ尽きず
「自由はどうぞ」の札に一礼しトマト戴く散歩の途中
世の中の日進月歩に戸惑うも健やかに生き平和なる幸
人々を不幸にしたる戦争は永久に無きをひたすら祈る
灼熱を枝葉一杯受けて立つ林の樹々の雄雄しき姿
見渡せば森羅万象調和してもの皆優し水澄む季節
可燃ごみ運ぶ途中に目纏いを払ひつつ急ぐ夕さりの道
海底の珊瑚も死滅す高温や雨も降らずに作物も危機
やることをやるだけやってその後は一番搾り（命の水）を流し込むのサ
海岸の駅に列車は留まりて潮風浴みし乗客を待つ
雨上がり西日に照らさるカブトムシ大樹にじっとへばりつきたり
前夜祭ブルの中のマスつかみずぶ濡になり稚児ら喜ぶ
蟬の声弱く弱く鳴き頑張れよ秋の虫たち我も八十過ぎ

皆野 大澤 貴夫
下田野 新井 節子
三沢 眞下 杏子
皆野 引間 万亀
皆野 根岸 詩子
下田野 浅見 豊子
皆野 戸塚喜久雄
皆野 萩原 初恵
三沢 新井 叶子
三沢 新井 民子
皆野 石原 達也
皆野 打木 昭廣
国神 藤原マキ子
皆野 村田ハツ代
下田野 沢 T・O

俳句 根岸茉莉 選 投稿数 18 句

赤壁や地球の窓に月の影
（評）長瀨の赤壁は紀元前八千五百年く六千六百年頃の結晶片岩で、中国長江上流の赤壁になぞらえて付け
たと言われています。地球の成り立ちがわかる窓です。青白く照らす月の光に赤味を増して輝きそびえ
立つ岩壁。太古と現世の融合。幽玄の美の世界に浸る作者です。素敵な場面に出会え良い句ができました
たね。二句目、イーハトヴはイーハトーブともいう宮沢賢治の造語で、理想郷を指し岩手県をモチーフ
にしています。澄み渡る空や涼しい風、草木の香、鳥のさえずり正しくイーハトヴ。「雨ニモマケズ」の
賢治の心髄に触れた思い出深い旅だったことでしょう。三句目、集落の秋祭り。笛も響も舞う獅子舞も
皆顔馴染です。にぎやかで、和やかで楽しい祭り。ずっと続けて欲しいですね。秋日和がぴったりです。

透きとおる風涼やかにイーハトヴ
皆野 太幡琉美花
荒川は悠久なりき終戦日
皆野 島 弘
笛影獅子が舞ひたる秋日和
国神 鈴木 正文
水平に飛ぶ蟬の緑かな
三沢 新井 民子
曼珠沙華寂光土への路を問ふ
皆野 中田 秀夫
猛暑日や道を尋ねて遠回り
皆野 櫻井 早苗
梅干して庭中に香の漂よへり
皆野 村田ハツ代
汗の手に年金通知受くる幸
三沢 新井 叶子
畑覆う草におろる秋猛暑
三沢 眞下 杏子
へたる身に追い討ちかける残暑かな
皆野 引間 千鶴
亡夫送り子達帰りて秋の風
下田野 新井 節子
大やねのむこうにリングの大火火
皆野 小二年 泉谷 健斗